

## ■まとめ

マレーシアは赤道直上のためとても暑く、リゾート地であるランカウイでは陽射しが攻撃的に感じるほどであった。しかし、クアラルンプールでは暑いとはいえ、雨季の時期もあってかそこまで感じなかった。同じマレーシアという国のなかでも、気候・街の雰囲気・時の流れ・人々の暮らし等、異なる要素はおおいにあったように思う。

ランカウイではやはり日本で体感できないであろう無二の大自然だ。海とつながるアイランドホッピングや、マングローブに包まれるカヤック、ケーブルカーにより山から見下ろすこの島の景色は自然に満ち溢れた宝庫といっても過言ではない。大自然の島からヨットで水平線に向かう時、開放感と安らぎ、心が浄化されるような神秘的な情景が体を通して感じ取れた。

クアラルンプールはビル群が犇めき合い、逆に日本かと錯覚するほどの雰囲気もまとっていた。しかし、多民族国家ということも影響しているのか、どこか混沌とした感じがした。建物でいうとKLCC等の中心部はギラギラした高層ビルがある一方、ムルデカスクエアのように、イギリス統治時代の面影を色濃く残す建物もいくつかあり、庶民の古い町並みも多く残っている。少し郊外に行けば、小都市のプトラジャヤにあるプトラモスクやブルーモスクなどのイスラム教独自の文化がある。ランカウイとは違い電車やモノレールが街をつないでくれているため、そこから眺める街並みからも感じ取れた。

普段の仕事の中で、時間を上手にコントロールできるように常々考えているが、ランカウイでは良い意味で全てを「無」にしてくれたように思えた。そして、クアラルンプールでは多様な街の一面を垣間見え、多くの情報源が思考に飛び込んで各々の体・脳裏に焼き付けられた有意義な研修旅行であった。

